

新任のご挨拶

公益財団法人 自然農法国際研究開発センター

理事長 黒田 達男



はじめまして。2020年6月に（公財）自然農法国際研究開発センターの理事長を拝命致しました黒田達男と申します。以前は（株）EM研究所に約30年勤め、EMという微生物資材の製造、販売を行って来ました。

EM研究所は設立理念・経営方針に「自然農法の普及拡大」を掲げており、当センターと同じ目標で業務を行って来ました。

微生物は、古くより味噌、醤油、お酒、乳製品などの食品加工に使われ、私達の食生活になくてはならないものです。その他、農業分野、汚水浄化の環境分野など多岐にわたって活用されていることはご存知のことと思います。

健康と微生物

近年、微生物が身体に大きな影響を与えていることがN

HKスペシャルなどの番組で何回も取り上げられ、私たちの身体には100兆以上の微生物が棲息しており、人の健康を左右するほどの影響を与えていることが分かってきています。健康ブームの中、乳酸菌をはじめ、発酵系の微生物を身体に摂り入れることが推奨され、数多くの食品がスーパ一の棚に並んでいます。

微生物の専門家の話では、地球上に棲息する微生物は、全体の1%も判明していない、また、微生物の働きもその一端しか分かっていないというこのようです。ただ経験上の事実として、発酵系の微生物を摂り入れ続けると腸内細菌の善玉菌が優先し、免疫機能が高まり、体調が改善され快方に向かわせるという多くの事例が出て来ています。米国では健康な人の腸内細菌にある特定の疾病の人に

移植する治療法で成果をあげており、今後の医療を大きく変えると思われています。このように微生物の持つ力は、医学的な治療においても、今後徐々に科学的に証明されていくものと思います。

土と微生物

また、土も同じことが言えるのではないのでしょうか。畑や田んぼの土壌微生物相を自然界の土壌微生物相のように多様にしていくという認識で有用な微生物を活用することは、健康な農産物を育てる必要条件の一つであると感じています。

土壌において有用な微生物の働きを発揮させるには、微生物を化学肥料や農薬のような「物」としてではなく、「生き物」として扱い、土壌に棲みつかせる工夫が重要なことだと思います。

私が40年程前に農業実習で自然農法実施農家にお世話になった時、その農家は近くの自然林の山裾から良い匂いのする腐葉土を運び、それを材料にして、苗床の土を作り育苗しておりました。その苗は病気もなく、茎の太いしっかりとした健康な苗でした。

その農家の話では、「自然農法は、できる限り自然の力を生かすことが大事で、人工的なものは、一時的、一面的に良くて、どこかで必ずみが出てくるということが自分の体験から言えるよ。畑は人が耕作しているから半自然であるので、いつも自然から力を借り、自然の力を取り入れることを考えているんだよ。」と言われたことを今でもはっきりと覚えています。

その腐葉土にどんな微生物や小動物が棲息していたかは定かではありませんが、極小



世界の生き物達が、土の中で自然の営みを発揮していたと考えられます。

自然農法、有機農業は画一的な技術、資材があればできるのではなく、それぞれの地域の気候、個々の農地の状況に適合した土の管理、さらには耕作者の想いも成果を上げるポイントだと思います。

生産者と消費者のネットワーク

現在、コロナ禍において、有効な治療法が研究されていますが、改めて私たちの身体本来の免疫機能を高めることが重要だと思います。自然農法では、健康な土と種子のたくましさ、旬の栽培が揃

うことによって作物が健康に育ち、健康な作物を食べることによって健康な人間が養われると考えます。健康な作物を育てる自然農法や有機農業のより一層の普及に努めたいと改めて肝に銘じております。

また、日本国内での食料の確保が重要だと改めて感じ方は多くいらつしやると思います。私もその一人です。同一作物を大規模で大量生産する農業も必要不可欠です。ただ、そのような農業だけではなく色々な農業がバランス良くあつたほうがいいと思います。たとえば、小農的な特定の生産者と消費者が強固に繋がるネットワークが拡大する

ことも必要だと思います。

自然農法、有機農業の農家は、それぞれ自分の想いを源に、どのような農業をしているのかを実践の中で、土のこと、草のこと、種のことを考え、失敗や成功を重ねて、農業技術を作り上げてこられています。また、生産した安全安心な農産物を消費者に食べていただくための活動は、生産するのと同じぐらい重要なことだと思います。

安全安心な農産物を求めるすべての消費者に供給する農業の形態がこれから求められる時代が来るのではないかと思います。

当センターは、「農」を基にした持続可能な地域社会づく

くりを推進するとともに、国内で唯一、自然農法による品種育成・種子生産・頒布までを一貫して行っています。

私達の育成した有機栽培に適した「自然農法センターのタネ」は、農家はもちろん、今、家庭菜園を実践されている多くの方へ頒布することにも特に力をいれて行き、有機栽培を志す方々への支援になればと考えています。

今後とも当センターの事業にご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。



自然農法センターのタネ

